

I - 3) 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、世界初の磁性材料フェライトの工業化を目的として 1935 年(昭和 10 年)に設立され、「創造によって文化、産業に貢献する」という創業の精神に基づき、電子材料、電子デバイス、記録デバイス及び記録メディア等の製品の研究開発と商品化に取り組んでおります。

今後も活力あふれる会社であり続けるために、常に新しい発想とたゆまぬチャレンジ精神によって、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会というすべてのステークホルダーに、より高い企業価値を提供し続ける企業でなければならないと考えております。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは経営の基本方針を具現化してゆくため、具体的に次の項目を指標として事業活動を展開しております。

(基本となる重要な経営指標)

* TVA(TDK Value Added)

TVA は事業活動によって企業が新たに創造した付加価値を計る指標であり、経営上の重要な判断指標として採用しております。

TVA とは投下資本に見合った収益状況を示す当社グループ独自の付加価値指標で、利払前税後利益と資本コスト(株主資本+有利子負債)を比較する指標です。

(環境を管理する指標)

* 二酸化炭素排出量

当社グループが地球環境との共生を推進するための環境活動における行動計画として、二酸化炭素排出量の削減目標を設定しております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は 2010 年 3 月期を初年度とする中期 3 カ年計画を策定、実行中です。同中期計画におきましては、次の 4 点を重点施策と定め、これらを具体的な活動計画に展開し、実行しております。すなわち、(1)市場ニーズに応え、特長ある電子素材・部品を提供し、地球と人の暮らしを豊かにする (2)素材・プロセス技術を追求し、コストと品質を極める (3)選択と集中を徹底し、トータルコストの低減により強い収益構造を実現する (4)生き生きと社員が働くプロ集団を実現する の 4 点です。

これらの施策を実行することで強固な収益基盤の上に独自技術に立脚した特長ある製品や環境に配慮した製品の開発・生産を通して、顧客に認められる価値を提案・提供し、電子部品業界におけるグローバルリーディング企業を目指します。

(4) 会社の対処すべき課題

2008 年後半の世界経済危機により急激に縮小した電子部品市場は、2009 年に入り底入れを見せ回復傾向にあります。2010 年 3 月期の電子部品市場は未だ前年を下回る規模に留まっております。電子部品市場が世界経済危機前の水準に戻るには時間を要すると予想されますが、中長期的にはエネルギー/環境分野へのエレクトロニクス技術/製品の貢献が見込まれ、ひいては電子部品需要の広がりが期待されます。このような今後の事業環境を想定し、当社グループは健全な収益構造を築くための諸施策を適時に実施し、企業体質を強化、改善することが喫緊の課題と捉えております。すなわち、電子部品の付加価値の源泉は素材開発力であることを改めて認識し、当社グループのコアコンピタンスである素材技術・プロセス技術・評価シミュレーション技術を通じて、顧客の求める製品を適時に提供することにとどまらず、生産効率向上による原価低減並びにより有効な販売費及び一般管理費のあり方を追求してまいります。

また、EPCOS AG とその子会社を 2008 年に買収したことにより、当社グループは人材の多様化が一層進むと同時に事業機会も増大しました。今後、当社グループは真のグローバル化を図り、企業買収の相乗効果発現と、資産効率改善を通じて、強固な収益基盤に裏付けられた競争力をさらに強化してまいります。

さらに、事業強化にあたっては環境の側面にも配慮し、顧客要求・社会動向(省エネルギー/法規制遵守/安全等)に適合した製品を供給してゆくとともに、企業活動で生じる環境負荷の低減(二酸化炭素の排出量削減等)を進めてまいります。このように、企業市民として社会と共生することの大切さを常に認識し、国内外の諸法規を遵守し社会に貢献する企業として一層邁進してまいります。

(5) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社の Web サイト(<http://www.tdk.co.jp/ir/houshin/hou03000.htm>)に、最新の情報を掲載しております。